

東海道を歩いてみよう

東海道は、江戸の日本橋から京都まで続いていました。
 総延長はおよそ500km、そのうちの16kmが市内を通っていました。



岡津の道しるべ



大池橋
 大池橋と秋葉神社の参道入り口に立てられた
 青銅製の大鳥居が描かれています。(国立国会図書館所蔵)



金西寺前
 金西寺と道の北側で餅を売る店が描かれています。
 (国立国会図書館所蔵)



昔ながらの松並木が
 見られるよ。



新町七曲

七つの曲がり角がある
 ことから、こう呼
 ばれているんだよ。



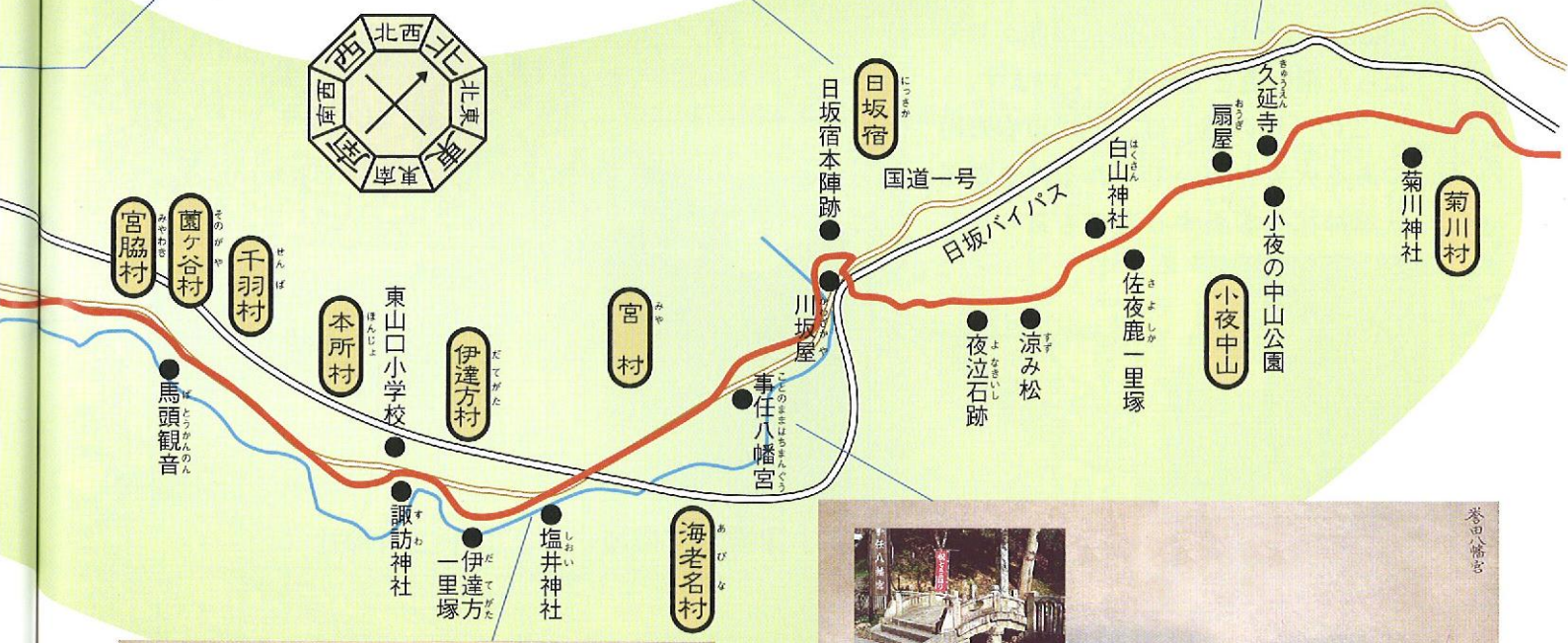
●比べてみましょう

ここにのせた5枚の絵は、今から約220年前の1786年に尾張藩の武士高力種信が描いたものです。種信は、東海道を尾張から江戸まで旅しながら、沿道の風景や旅人などを描きました。

当時の風景や人々の服装などを知ることができる貴重な絵です。
 220年前と現在の様子を比べてみましょう。



久延寺
久延寺とその西に並ぶ飴屋などが描かれています。
青く塗られた部分は、かすかに見える山と海です。
(国立国会図書館所蔵)



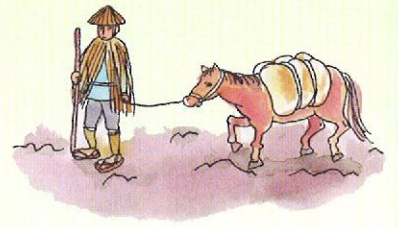
現在の石の橋

事任八幡宮前
事任八幡宮の入り口にかかる石の橋と鳥居などが描かれています。
(国立国会図書館所蔵)



塩井神社前
東海道を江戸方面に向かう行列と逆川の南にある塩井神社が描かれています。(国立国会図書館所蔵)

「塩の道」を歩いてみよう



Q1 どうして「塩の道」ができたのですか。

A1 人間は、塩がないと生きていきません。日本では、塩を海水からつくってきました。

この海水からつくられた塩を、海から遠く離れて暮らしている人に運んだ道が「塩の道」です。この道は、人、物、文化の交流などに重要な役目を果たしました。

Q2 市内の「塩の道」は、どこを歩いていたのですか。

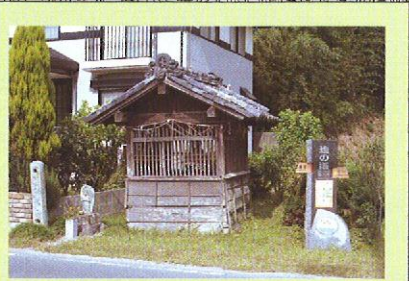
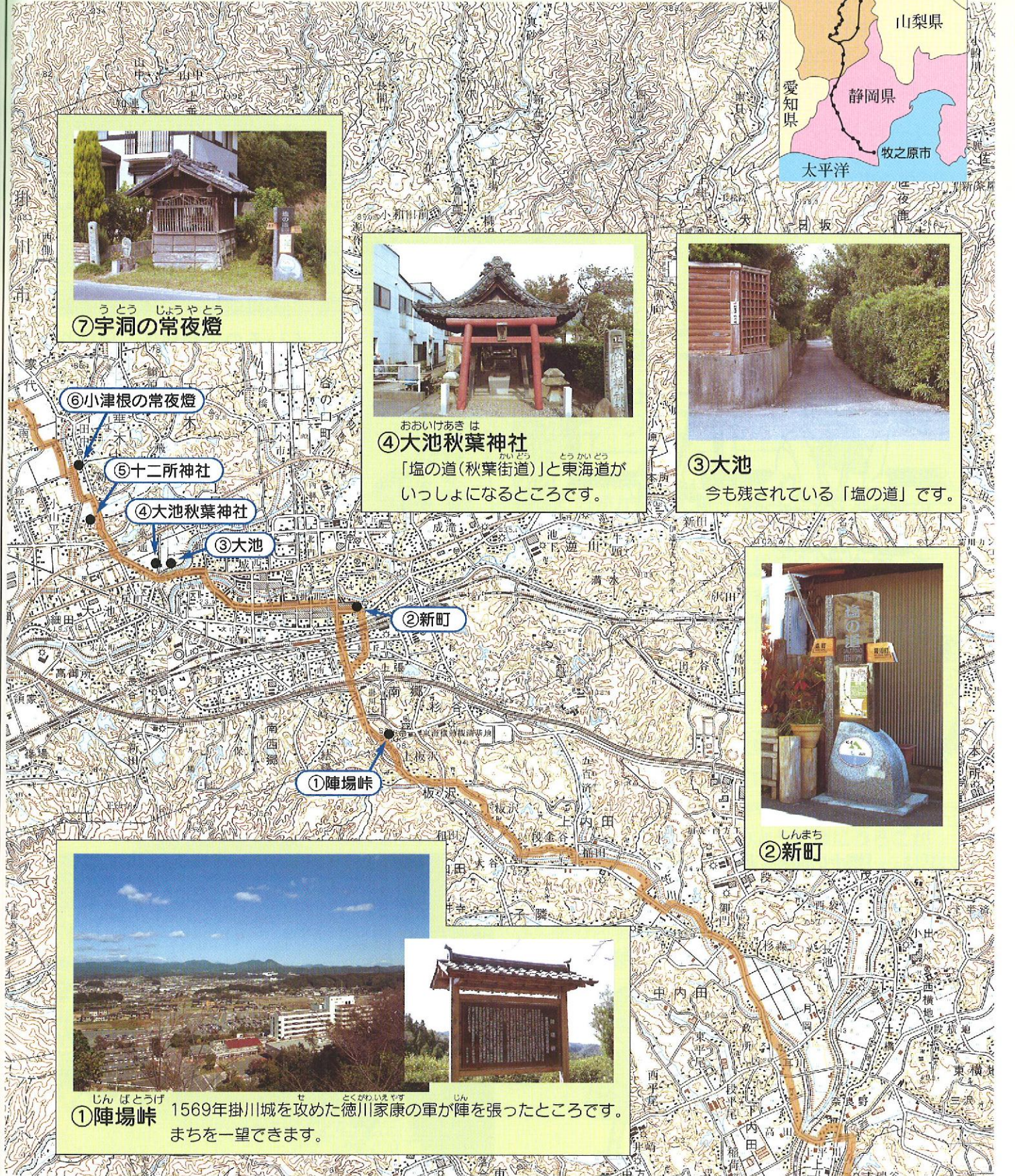
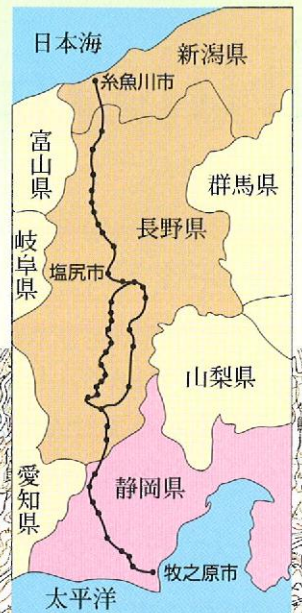
A2 上内田から幡鎌まで南北およそ18kmにわたり「塩の道」が曲がりくねった細い道として残っています。

この「塩の道」は、浜松市春野町にある火災を防いでくれる神を祭る秋葉神社へ参詣する道でもありました。



塩の道

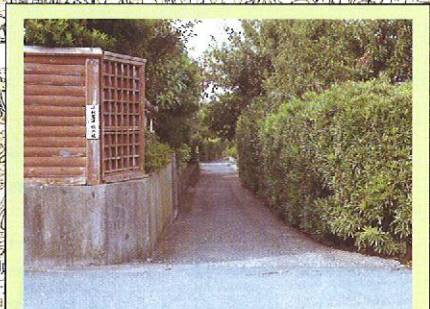
塩が運ばれた道は各地にたくさんありますが、その中で最も古くて長い「塩の道」が、日本海沿岸の糸魚川から長野の塩尻に達する「北塩ルート」と、静岡県牧之原市から掛川を通過して塩尻にいたる「南塩ルート」です。合わせて約350kmの道です。



⑦宇洞の常夜燈



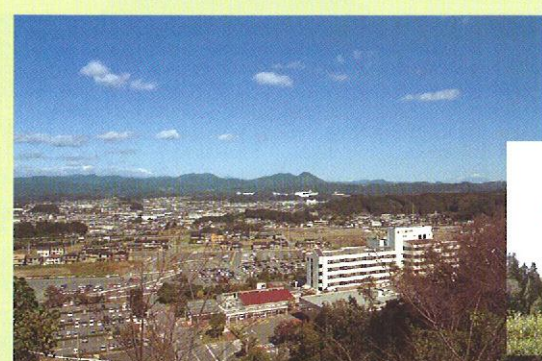
④大池秋葉神社
「塩の道(秋葉街道)」と東海道が
いっしょになるところです。



③大池
今も残されている「塩の道」です。



②新町



①陣場峠 1569年掛川城を攻めた徳川家康の軍が陣を張ったところ
まちを一望できます。



「この地図は、国土地理院長の承認を得て、同院発行の5万分の1地形図及び数値地図25000(地図画像)を複製したものである。(承認番号 平18総複、第999号)」

掛川の伝承と伝説 1

大和田地区 ●



◆伝承や伝説を調べてみよう。

自分たちの住んでいる地域には、昔から伝わってきた話があると思います。その話は、本当のことなのかどうかわかりませんが、おもしろい話だったり恐ろしい話だったりさまざまです。昔から伝えられてきた話のことを伝承、伝説といいます。どのような話があるか調べてみましょう。

◆大和田地区の伝承

江戸時代の中ごろ、今の原泉の大和田地区に勘太郎というとんちが得意な人がいました。掛川城主とこの

勘太郎とのとんち話がたくさんあります。左の絵は、その話の中のひとつです。

大和田には、猪がたくさんいるので殿様は、猪狩りに行こうとしました。「その猪は、どんな暴れ方をするのか。」と勘太郎に尋ねたところ「こんな具合です。」と言って、お城のふすまをつき破って猪の真似をしたということです。しかし、こんな勘太郎のことを殿様は、大変気に入っていて、仲がよかったということです。今でも、勘太郎の屋敷跡が大和田地区には残っています。



(故 山下芳彦氏画)

この話は、『郷土の開発に尽くした人々 第I集・江戸時代』という本にのっています。

伝承、伝説を調べるために、近くに住んでいるお年寄りに話を聞いたり、市役所や図書館に行つて資料を調べてみましょう。

勘太郎の屋敷跡が今も残っているんだね。行ってみよう！



勘太郎の屋敷跡(大和田)



◆十九首塚の伝承



940年（大慶3年）、平将門を討ちとつた藤原秀郷一行が、将門以下19人の首を都に運ぶ途中、京からの首実檢の使者と掛川で出会い、ここで首を洗い、晒して葬つたと伝えられています。

また、井伊家の資料などによると、1562年（永禄5年）今川家の家臣の井伊直親が20人余りの家来と、駿府の今川氏真に謀反の疑いを晴らすための説明に行く途中、この地で掛川城主朝比奈泰朝らにより討たれたという記録があります。

小夜の中山に伝わる三つの話



小夜の中山



夜泣石…昔、中山峠で妊婦が強盗に殺されましたが、赤ちゃんは無事生まれました。近くにあった丸い石が泣き声をあげて赤ちゃんがいることを村人に知らせたので、赤ちゃんは助けられました。音八と名付けられた赤ちゃんは、子育てで成長し、おとなになってから母親のかたきを討つことができたという、久延寺と子育て胎にまつわる話です。



蛇身鳥…生き物を殺すことが好きな父親に殺生をやめさせようと、子どもが熊の毛皮をかぶって山に登りました。父親は、本物の熊と間違えて子どもを殺してしまいました。母親は、悲しみのあまり蛇のように体にうろこがある雉になりました。そして、小夜の中山に現れては、鋭いくちばしや刃物のような羽で住んでいる人や旅人を襲いましたが、都からやってきた弓の名人に退治されたという話です。

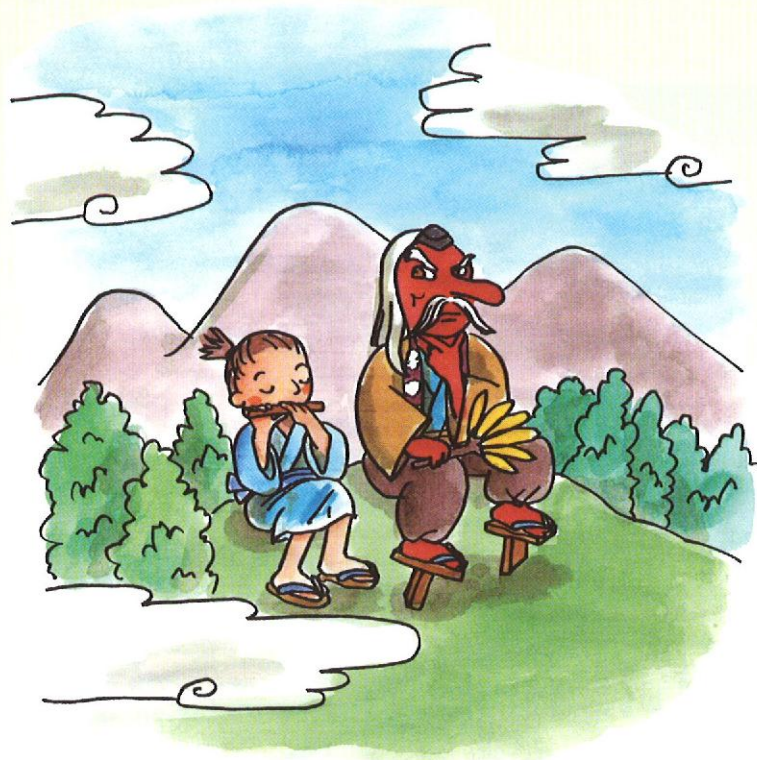


無間の鐘…この鐘をつくとその世では金持ちになれるが、死んでから地獄に落ちるといふ評判があった鐘です。金欲しさに大勢の人が鐘をつきにくるので、鐘を栗ヶ岳の頂上近くの井戸に埋めたという話です。

掛川の伝承と伝説 2



◆天狗になった少年



大むかしのことです。小笠山のふもとの村に小太夫という少年がいました。小太夫は、横笛が好きで毎日笛ばかり吹いていました。

ある日のこと、いつものように小笠山の中に入って、笛を吹いていると、山のおくから天狗が出て来ました。そして、「お前は、笛が上手だな。おれの家来にならないか。」と言いました。小太夫は、しばらく考えていましたが、「よし、家来になるよ。」と返事をしました。すると小太夫の姿はその場から消え、それからどこをさがしても見つかりませんでした。小太夫のお母さんは心配で心配で毎日泣いて暮らしていましたが、ある夜、お母さんの夢の中に小太夫が現れて、「お母さん、心配しないでください。私は、今天狗になって楽しく暮らしています。名前は小笠山多聞天狗と言います。」といいました。

その後、多聞天狗は、いろいろとよいことをしてくれたので、「多聞天さま」として今でもまつられています。

右の写真は、小笠山の南側の入山瀬地区で、天からのさずかりものとして大切にされている「天狗のお爪」です。

これは、畑の耕作中などに突然出てくるもので、持っている人も少なく、大変貴重なものです。この形が、小笠山に住んでいると言われている天狗の爪のようなので、「天狗のお爪」と呼ばれています。

戦争の時には、この「お爪」は弾除けのお守りとして使われ、持って行った人は弾に当たらずに、無事に帰ってこることができました。

今でも「天狗のお爪」はそれぞれの家で、家宝として大切にみつかわれています。



天狗のお爪

? 参考にしてみよう

こんな本があるよ。

(参考になる本)

○天狗のお爪

○だいたい小事典





大渕地区

◆ 晴明塚の伝説

大渕地区の国道150号から海岸の方に向かう小道の途中に晴明塚と呼ばれる小さな塚があります。この塚は、長い所で3メートルほどの楕円形、70cmほどの高さに赤い石が積まれた塚です。

この塚には、こんな伝説が残されています。

今から千年以上前のこと、京都に安部晴明というえらい学者がいました。この人はただの学者ではなく、未来を占う術など不思議な力を持っていると言われていました。

ある時、晴明が、大渕の村にやってきました。村の人たちは大喜びして、「あの恐ろしい津波と、うるさい波の音をなくしてください。」とお願いしました。

晴明は、「わかった、やってみよう。だが、そのためには、お金をもらおうがよいか。」と言いました。

村人たちは、晴明に言われたお金を集めはじめました。しかし、大金だったため、なかなか集まりません。それでもようやく津波をなくしてもらおう分のお金は集まったので、晴明の所に持って行って頼みました。

「よし、では津波がこないようにしてやろう。」晴明は、海岸近くに行き、赤い石を集めて小山のように盛りあげました。そして、しばらくお祈りをして、「さあ、これでこの所から村の方へは、津波は来ないよ。」というのと、どこともなく行ってしまいました。



さて、数日後、大津波が来てとなり村など大きな被害が出ましたが、この村は、この小山をさかいに無事でした。

「これはありがたいことだ。晴明さまに感謝してこの塚を『晴明塚』と名付けよう。」と村の人たちは大喜びして、さらに赤い石を集めて小山を高くしました。

それから、この小山は、山がくずれても、一夜のうちに盛り上がるし、違う色の石を持っていっても一夜のうちに赤い石になると言い伝えられています。



？ 参考にしてみよう



こんな本があるよ。

〈参考になる本〉

- 静岡県西部のおもしろい伝説
- 静岡県西部のふしぎな伝説
御手洗 清 著 遠州伝説研究協会
- 新版 遠江の伝説
小山 枯柴 編著 羽衣出版

ため池の多い掛川市

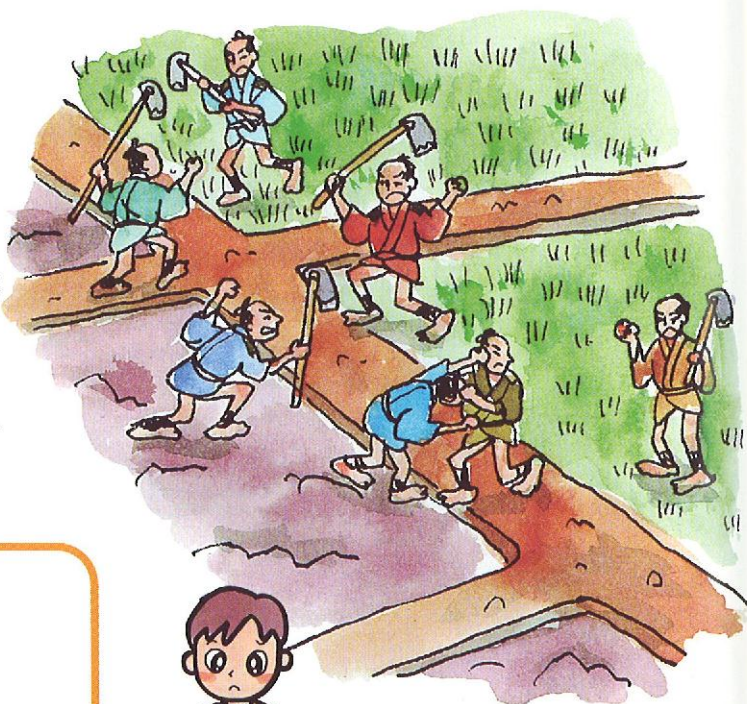
なぜため池が多いのでしょうか。



江戸時代以前につくられた大池(第二小学区)

昔から、掛川は川がたくさんありましたが、小さな川が多く、水量も少なく、水面の低い川もありました。そのため、水田に思うように水が引けなかったり、きびしい日照りの時には役に立たなかったりしたのです。

米が取れなくても税を払わなければならず、人々は苦しみました。そこで、村人たちは、日照りが続くと神社に雨ごいに出かけたのです。また、夜、こっそり、水を自分の田に引き入れようとして見つかり、けんかになったこともありました。



静岡県 716

掛川市 250

上の数字は何を表しているのでしょうか。

これは、静岡県と掛川市のため池の数を比べたものです。掛川市は、県内でもため池の数がたいへん多いことがわかります。



ため池はいつごろ、どのようにしてつくられたのでしょうか。



ため池は谷が入り組んでいる地形を生かしてつくられました。(亀の甲池 中央小学区)



宝谷池にある石碑(城北小学区)

水不足に悩んでいた掛川の人々は、小さな谷が入り組んでいる地形を利用してため池をつくり、田に水を引きました。

昔は、今のようすぐれた機械や道具がなかったので、村人みんなでため池づくりをしました。ため池づくりには、かなりの費用や口数がかかったので、完成した時の人々の喜びはたいへんなものでした。完成を祝って記念の石碑が建てられているところもあります。

こうして、水不足に悩まされていた掛川市では、ため池のおかげで、日照りの時でも苦しめられることはほとんどなくなり、今まで以上にお米がたくさん取れるようになりました。

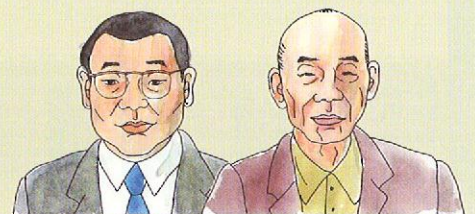
市内のため池は、江戸時代とそれより前につくられたものが約40%、明治時代が約55%です。江戸時代以前から水の確保に苦勞している様子がわかります。

また、水を確保するために、大井川から水を引くことが計画されました。1887年(明治20年)、1946年(昭和21年)に計画され、1972年(昭和47年)に大井川右岸用水が完成し、市内の田畑が潤うようになりました。

「桜木池のできるまで」

昭和23年、私たちが小学生のころ工事が始まりました。県にお願いしてから10年以上たったの工事開始でした。当時のお金で1,800万円(今のお金で約3億円)ほどの大工事でした。地区の人たちが交替で工事をしました。小学生や中学生なども家の代表として工事に加わりました。くわで土を掘る、もっこやトロッコで土を運ぶのが主な仕事でした。機械などなく、すべて手作業でとてもたいへんでした。池の水が米作りに欠かせないのはもちろんですが、海から遠い桜木地区では桜木池の魚は大切なたんぱく源として村の人々の食べ物となりました。

中山友好さん・青山俊夫さんのお話



掛川市の歴史年表 (縄文時代—江戸時代)

時代	縄文時代	弥生時代	古墳時代	飛鳥時代	奈良時代	平安時代	鎌倉
年	紀元前 一万ごろ	紀元前 四〇〇〇ごろ	三〇〇〇ごろ	七〇九 七〇〇	七五五	七九四 九三五 九四四 一〇七〇 一一八四 一〇九五	一一九二 一一九〇 一一八六

源頼朝が鎌倉から京都へ行った帰りに懸河(掛川)に泊まる
西行が「年たけてまた越ゆべしとおもひきや」

命なりけりさやの中山「の句を小夜の中山で詠む」

原清盛が、平家追討軍に加わる

内田家吉が、源(木曾)義仲追討軍に加わる

小高荘(西郷・城北・西山口あたりか)の名が記録にあらわれる

山口御厨(西山口・東山口)がつくられる

長福寺(原谷)の鐘がつくられる

このころ書かれた『倭名類聚抄』という本に掛川の地名がある

六ノ坪遺跡(第二)に役所または寺院がつくられる

このころ清ヶ谷古窯群で遠江国分寺の瓦が焼かれる

文部黒当、生玉部足国が、防人として九州に行く

和同開珎と銅鏡が、深谷遺跡(西山口)に埋められる

遠江国の兵士が、東北地方の蝦夷を討ちに行く

諏訪瓦窯(東山口)がつくられる

毛森山横穴群(中・西之谷)・下土方青谷横穴(下土方)・愛宕山横穴(横須賀)

茶屋辻横穴群(第一)・大谷横穴群(東山口)・岡津横穴群(曾我)

向山横穴群(第二)・宇洞ヶ谷横穴(中央)・飛鳥横穴群(桜木)

横穴墓がつくられる

五塚山古墳(大坂)・野中古墳(大淵)・居村古墳群(曾我)

平塚古墳(西郷)・長福寺古墳群(原谷)・前坪古墳群三号墳(曾我)

和岡古墳群(和岡)・天王山古墳群(城北)

前方後円墳、円墳などの古墳がつくられる

天王森・古楠遺跡(西大淵)・兼情遺跡(大坂)・神田遺跡(大坂)

高瀬遺跡(佐束)・中方遺跡(中)・原新田遺跡(城北)

大六山遺跡(西山口)・原川遺跡(曾我)・東ノ谷遺跡(第二)

堂山遺跡(原田)・高田遺跡(和岡)

稲作が始まる。高田遺跡(和岡)などから米が発見される

三井山Ⅱ遺跡(大坂)・石津遺跡(横須賀)・山王遺跡(大坂)

糸繰遺跡(千浜)・田島遺跡(上内田)・メノト・栗下遺跡(東山口)

岡津原Ⅲ遺跡(曾我)・柿ヶ谷遺跡(西郷)・上ノ段遺跡(原田)

中原遺跡(和岡)

川ぞいの小高い場所に集落がつくられる

川ぞいの小高い場所に集落がつくられる

川ぞいの小高い場所に集落がつくられる

川ぞいの小高い場所に集落がつくられる

川ぞいの小高い場所に集落がつくられる

川ぞいの小高い場所に集落がつくられる

川ぞいの小高い場所に集落がつくられる



諏訪瓦窯の瓦

源頼朝が征夷大将軍となる(一一九二)

平清盛が太政大臣になる(一一六七)

藤原氏の全盛時代を迎える(十一世紀)

平安京(京都)に都をうつす(七九四)

東大寺の大仏が完成する(七五二)

平城京(奈良)に都をうつす(七一〇)

大化の改新(六四五)

聖徳太子が摂政になる(五九三)

推古天皇が即位する(五九二)

大和朝廷の統一が進む(四世紀)

卑弥呼が中国に使いを送る(二三九)

原清盛
内田家吉

↓ P23 ↓ P23

生玉部足国
文部黒当

↓ P17 ↓ P17

掛川のできごと

日本のできごと

掛川の人物

時代 室町時代 安土桃山時代 江戸時代

- 一八六八
- 一八五八
- 一八五五
- 一八四八
- 一八三九
- 一八〇八
- 一八〇五
- 一八〇四
- 一八〇三
- 一八〇二
- 一七九八
- 一七九八
- 一七六〇
- 一七二九
- 一七二〇
- 一六九一
- 一六八四
- 一六三四
- 一六〇三
- 一六〇一
- 一五九〇
- 一五八一
- 一五八〇
- 一五七九
- 一五七四
- 一五七三
- 一五七一
- 一五六九
- 一五六八
- 一五一三
- 一五〇〇
- 一四九七
- 一四九六
- 一四〇〇
- 一三三八
- 一三三五
- 一三三三

戸塚静海らが、江戸に種痘所を設立する
桶狭間が、ロシアに密出国する

倉真村の庄屋岡田佐平治が、村内に報徳社をつくる
掛川藩主の絵師村松以弘が、死去する

石川依平が、栗田土満に弟子入りして国学を志す
伊能忠敬が、東海道を測量し、掛川宿本陣に泊まる

後藤美之が、法多山尊永寺に和算の額を奉納する
伊能忠敬が、駿河から尾張の海岸を測量し、成行村(千浜) 横須賀町に泊まる

大須賀鬼卵が、『東海道人物志』を著す
松崎棟堂が、掛川藩の学校の教授になる

オランダ商館長、ゲイスベルト・ヘンニイが、掛川宿で死去し天然寺にほうむられる
渡山得船和尚の知識をもとに、倉真川から八幡池まで水路がつくられる

現在のベトナムから將軍吉宗に贈られた象が、東海道を通る
このころ三浦重兵衛が重兵衛新田(原田)をつくる

掛川宿に大火事が発生し、約二百戸が焼ける
松尾芭蕉が「馬に覆て残夢月遠し茶のけぶり」の句を小夜の中山で詠む

三代將軍家光が、三十万七千人の大軍を率いて京都の行き帰りに掛川宿に泊まる
掛川宿、日坂宿が東海道の宿として整備される

山内一豊が、掛川城主になる
高天神城を守る武田軍が、総攻撃をしかけるが、徳川軍に破れる

大須賀康高が横須賀城主になる
このころから、家康は高天神城奪還のための六砦を築きはじめる

西郷局(上西郷出身)が、後の徳川二代將軍秀忠を産む
武田勝頼、高天神城を攻め開城させる



山内一豊

武田信玄が、高天神城(土方)を攻める
このころ、高天神城主小笠原長忠は徳川家康の家来になる

徳川家康が、今川氏真、朝比奈泰朝がこもる掛川城を攻める
朝比奈泰能が、掛川城を今の場所につつす

このころ朝比奈泰能が、掛川古城(第一)をつくる
松浦氏の倉真城(倉真)、原氏の高藤城(原合)が今川氏に攻められ落城

川井氏の松葉城(倉真)が、今川氏に攻められ落城
このころから新しい仏教が広まって寺院がつくられるようになる

足利尊氏が、小夜の中山で北条時行と戦つ
各和郷(和田岡)、下西郷(第一・中央)が足利直義に与えられる



高藤城跡

ペリーが浦賀に来る(一八五三)
天保の改革が始まる(一八四一)

寛政の改革が始まる(一七八七)

享保の改革が始まる(一七二六)
鎖国が完成する(一六三九)

参勤交代制度ができる(一六三五)
東海道の一里塚が整備される(一六〇四)

徳川家康が征夷大將軍となり江戸に幕府を開く(一六〇三)
関ヶ原の戦いが起こる(一六〇〇)

豊臣秀吉が天下を統一する(一五九〇)
室町幕府がほろびる(一五七三)

室町幕府がほろびる(一五七三)
鉄砲が種子島に伝わる(一五四三)

応仁の乱が起こる(一四六七)
足利尊氏が征夷大將軍となる(一三三八)

建武の新政が行われる(一三三三)
鎌倉幕府がほろびる(一三三三)

元が攻めてくる(一二七四、一二八二)

桶狭間
岡田佐平治
村松以弘
石川依平
八木美穂
後藤美之

大須賀鬼卵
松崎棟堂
ゲイスベルト・ヘンニイ
渡山得船
三浦重兵衛

山内一豊
大須賀康高
西郷局

朝比奈泰朝
朝比奈泰能
原氏
松浦氏
川井氏

足利尊氏
建武の新政
鎌倉幕府
元

足利尊氏
建武の新政
鎌倉幕府
元

足利尊氏
建武の新政
鎌倉幕府
元

足利尊氏
建武の新政
鎌倉幕府
元

足利尊氏
建武の新政
鎌倉幕府
元

足利尊氏
建武の新政
鎌倉幕府
元

足利尊氏
建武の新政
鎌倉幕府
元

足利尊氏
建武の新政
鎌倉幕府
元

足利尊氏
建武の新政
鎌倉幕府
元

足利尊氏
建武の新政
鎌倉幕府
元

足利尊氏
建武の新政
鎌倉幕府
元

足利尊氏
建武の新政
鎌倉幕府
元

足利尊氏
建武の新政
鎌倉幕府
元

昭和時代

平成時代

一九四四	一九四五	一九四七	一九四八	一九六三	一九六七	一九六九	一九七五	一九八一	一九八三	一九八四	一九八六	一九八八	一九八九	一九九三	一九九四	一九九六	一九九八	一九九九	二〇〇一	二〇〇二	二〇〇三	二〇〇五
一九	二〇	二二	二三	三八	四二	四四	五〇	五六	五八	五九	六一	六三	元	五	六	八	一〇	一一	一三	一四	一五	一七

掛川市・大東町・大須賀町が合併する
 国体がエコパで開催される
 ワールドカップがエコパで開催される
 市立二の丸茶室が完成する
 市立中央図書館が完成する
 国道一号日坂バイパスが開通する
 文化会館シオーネ・シートピア・吉岡彌生記念館ができる
 大日本報徳社大講堂が県の文化財に指定される
 市立二の丸美術館が完成する
 現在の市役所の建物が完成する
 和田岡古墳群が国の史跡に指定される
 掛川城天守閣が復元される
 東名高速道路掛川インターチェンジが完成する
 東海道新幹線掛川駅が開業する
 二俣線が天竜浜名湖鉄道となる
 現在の市立総合病院が完成する
 生涯学習センターが完成する
 横須賀城が国の史跡に指定される
 大須賀中央公民館ができる
 国道一号掛川バイパスが開通する
 高天神城が国の史跡に指定される
 逆川浄水場が完成する
 軽便鉄道（中遠線）廃止
 県立中遠工業高等学校（現在の掛川工業高等学校）が開校する
 県立池新田高等学校横須賀分校（現在の横須賀高校）が開校する
 掛川で農地改革が開始される
 掛川が、空襲の被害を受ける
 東南海地震が起こり、大きな被害を受ける



東海道新幹線掛川駅開業



東名高速道路掛川インター完成



新「掛川市」の開市式



東南海地震

長野オリンピックが開催される（一九九八）
 阪神・淡路大震災が発生する（一九九五）
 東名高速道路が開通する（一九六九）
 東京オリンピックが開催される（一九六四）
 東海道新幹線が開業する（一九六四）
 太平洋戦争が終わる（一九四五）

掛川歴史マップ



① てんしゅかく じょうない
掛川城天守閣 (城内)



② だいにっぽんほうとくしゃ
大日本報徳社 (城内)



③ たいゆういんおたまや
大猷院霊屋 (城内)



④ ちょうふくじ ほんごう
長福寺 (本郷)



⑥ かもそう はらさと
加茂荘 (原里)



⑦ さくらぎ かみたるき
桜木池 (上垂木)



⑧ ほうせんじ かみさいごう
法泉寺 (上西郷)



⑨ まつばしようち
松葉城跡 (倉真)



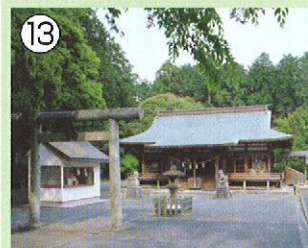
⑩ かわざかや にっさか
川坂屋 (日坂)



⑪ さよしか いちりづか
佐夜鹿の一里塚 (佐夜鹿)



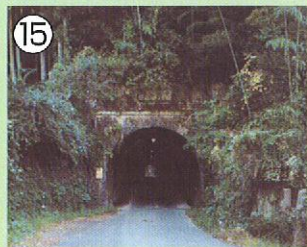
⑫ だてがた
伊達方の一里塚 (伊達方)



⑬ たつお しもさいごう
龍尾神社 (下西郷)



⑭ かわさきかいどう
川崎街道の道しるべ (成滝)



⑮ がんしろうじ すいどう がんしろうじ
岩井寺隧道 (岩井寺)



⑯ かくわ かなづか こふん かくわ
各和金塚古墳 (各和)



⑰ とうかいどう なみき はらかわ
東海道の松並木 (原川)



⑱ たかてんじんじょうあと
高天神城跡 (上土方額向、下土方)



⑳ よこすかじょうあと にしおおぶち
横須賀城跡 (西大淵)



㉑ みくまの じんじゃほんでん にしおおぶち
三熊野神社本殿 (西大淵)



㉒ よしおがやよい いちくせい家 しもひしかた
吉岡彌生移築生家 (下土方)



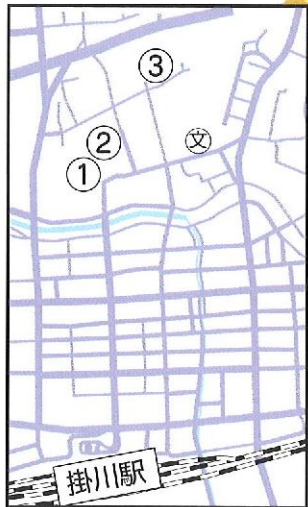
実際に自分で確かめてみよう。



⑤



小津根の常夜燈
(下垂木)



⑱



遠江塚(久保)

⑳



貞永寺本堂(大坂)

